

シンポジウム『損保と共済の社会的役割』第三弾 !!

「損保3メガ体制」のもとで— 損保代理店の社会的役割を考える

今年4月より損害保険産業で第二次再編、合併・統合が始まります。

これにより三大メガ損保グループ体制がスタートし、外国では類のない異常な寡占化体制となります。この体制は契約者・従業員・代理店のためでなく、ひたすら「規模の拡大」と「効率化」のみの『利潤第一主義』へ突き進んでいくのではないかと懸念されています。

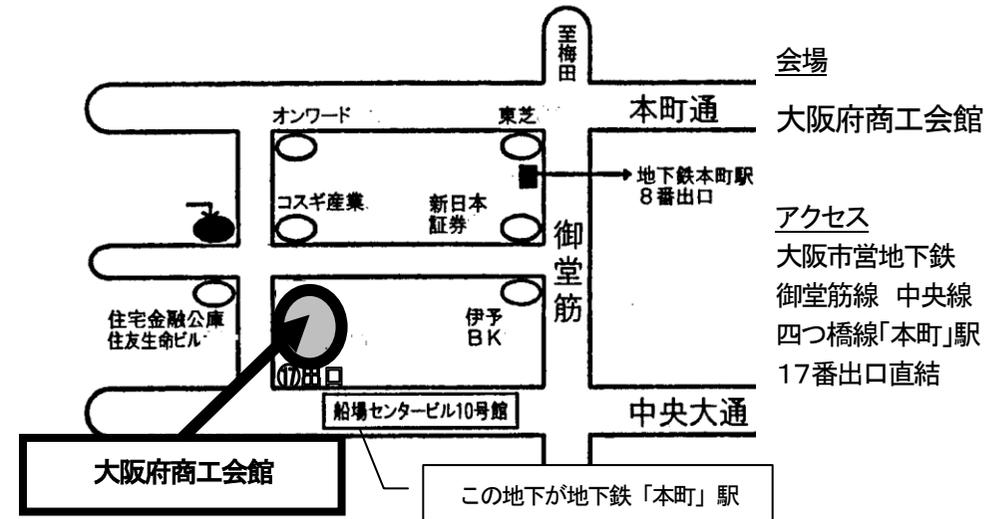
この流れに沿って、いま損害保険各社は事業費圧縮へ邁進しています。その矛先はいま代理店にも向けられています。代理店を単にコストとしてしかみなさず、儲からない代理店、会社方針に沿わない代理店は切り捨てるといった政策が横行しています。まさに労働者派遣切りと同じことを、損保各社は代理店に対して行なっています。

日本の損保産業を支え、セーフティネットを社会の隅々に広げてきたのが代理店です。代理店は契約者の生活や仕事を長年にわたりずっと親身になって考え、将来への安心のためにと保険商品を提供してきました。万一、事故があった時には「保険に入っていて本当に良かった」と感謝され、契約者・国民のみなさんと苦しみや喜びも共にし、社会の安心ネットワークの最先端で体を張って頑張ってきたのが代理店です。その代理店が代理店経営もままならず、将来展望も持てない現実さらされています。そして、損保会社の従業員も「効率化」の下、職場実態の悪化と将来不安が広がっています。さらに言えば、この先には契約者に対しても「利潤第一主義」による切り捨てが懸念されます。

このような中で大阪損保革新懇では代理店問題プロジェクトを立ち上げ、昨年夏以降数回にわたって代理店のみなさんとともに将来の不安や悩みなど日頃の思いを出し合い、共通の問題点等をみんなで話し合ってきました。その結果、「損保3メガ体制」のもとで—シンポジウム『損保代理店の社会的役割を考える』を開催し、みんなでともに考え、ともに行動しようということになりました。このシンポジウムは2008年、2009年に開催したシンポジウム『国民生活に軸足を置いた損保代理店・外勤そして共済の社会的役割を考える』の第三弾として開催するものです。代理店の方々にとどまらず、損害保険産業に働くあるいは関わらるすべてのみなさんに参加を呼びかけます。

記

- 日時 2010年4月14日(水) 午後6時半開会～8時半
会場 大阪府商工会館7階大会議室
(地下鉄御堂筋線本町駅下車17番出口)
- 第一講演 「最新の共済をめぐる情勢」
大阪府保険医協会 事務局長 杉嶋 正信 氏
- 第二講演 「損保代理店の社会的役割を考える」
兵庫県立大学大学院経済学研究科博士後期課程
松浦 章 氏 (大阪損保革新懇世話人)
- 各界からの報告と決意
まとめ 代理店問題プロジェクト主査 小畑 裕久 氏



参加協力費 1000円

シンポジウム終了後、近くの居酒屋で交流会を開催